



# 帷の木

平成29年11月1日  
朝霞市立朝霞第八小学校  
電話：048-465-8381  
男子547名 女子514名 1061名

【学校教育目標】 **かこく・やさしく・たくましく**

## “失敗”にめげない子に

校長 鈴木 聡

小学生の頃はかなりのテレビっ子（一日6時間は普通）だった私ですが、今は1時間も見ないことが普通です。そんな私が面白く見ている番組にプレバトがあります。俳句を評する先生の語り口とその酷評に耐える芸能人の反応が面白いのです。他人がこき下ろされるのを楽しむというのは、決していい趣味とは言えませんが、低い査定を受け入れたりめげずに作句し続けたりする姿に興味を湧きます。というのは、近頃子どもたちに耐性の低さを感じるが多くなっているからです。

これは、子どもたちだけの問題とは言い切れない面があると考えます。何故なら、親や教師が、子どもができるだけ失敗しないで済むように環境を整えたり支援したりすることが影響していると思われるからです。支援者（親や教師）からすれば至極当然のことなのですが、子どもが失敗しないで済むということが、支援者にとっても都合が良い、即ち、面倒なことに関わらずに済むということであるように思えるのです。それは、果たして子どもの発達にとって良いことなのでしょうか。

誰だって失敗は嫌で恥ずかしいことで、できることなら失敗などしたくないと考えます。しかし、失敗をあまりに恐れると、気持ちが萎縮し身動きできなくなってしまいます。何事に対しても躊躇し、自分からチャレンジしなくなることとなります。支援者には、失敗しないように気を使いすぎるのではなく、上手に失敗させるくらいの見通しをもって支援に当たることが必要なのです。過剰な気遣いやサービスは、子ども自らが自分の力で立ち直る力を削いでしまうことにも繋がりがねません。子どもたちの様子に気を配ることはとても大切なことですが、子どもの力を信じて温かい目でそっと見守る間接的な支援が必要な場面もあることを支援者である大人は自覚して、じっくりと子どもと関わっていく必要があると考えます。

今年度、私は子供たちに“Having a go!”「やってみようよ！」と呼びかけています。挑戦する心に火が付いてくればと願っています。後のフォローは保護者の皆様や各担任にお任せすることになるのですが、宜しく願いいたします。

10月25日、“次代に語り継がれるレガシー創出事業”の第一弾として、中京大学3年 池田樹生（いけだ みきお）さんを迎えて、ユニバーサル・ラン スポーツ義足体験授業を本校体育館で開催し、6年生が参加しました。（1～3校時にスポーツ義足体験、4校時に学年全体での講演）

池田さんは現在21歳。先天性障害で生まれた時から右膝下と右肘先に障害を抱えています。小学校時代は野球やサッカーに親しみ、中学校時代はバスケットボール部に所属しました。高校から陸上競技（100mと400mが専門）を始め、昨年6月、ジャパンパラ大会において、400m57秒40の日本記録を樹立されました。子どもたちの障がい者に対する意識や考え方を変えたい。そして、夢の大切さやパラスポーツの魅力を伝えたいとの思いからこの事業に協力、参加されています。

授業は、池田さんがご自身の障害について、身体を示しながら話されることから始まりました。普段着けている義足を外し、スポーツ時に着用するスポーツ義足と義手とともに児童に手渡しました。全児童がそれを手にするの待ってスポーツ義足を身に付け、軽く走る姿を見せてくれました。そして、全児童が池田選手や9名のサポートスタッフと交流しながらスポーツ義足を体験しました。体験後の講演では、池田選手への質問時間があり、率直に答えられる姿にも私は感動を覚えました。子どもたちは、池田選手やサポートスタッフとの交流を通して、多くの事を感じ学んだことと思います。授業後、子どもたちは給食時のスタッフとの会食を楽しみ、この日の事業を終えました。

※この体験授業は、(株)LIXIL、(株)Xiborg(サイボーグ:義足メーカー)の支援により行われている東京2020公認の教育プログラムです。

